

2017 地域連携事業報告

篠崎 健司

Report of Regional Collaborative Activities in 2017

Kenji SHINOZAKI

はじめに

本校は、2017年の地域連携事業として実施した以下の活動についての報告のとりまとめである。

- ① 3月15日～17日 北海道南富良野町でのウィンター・アウトドア・プログラムの実施体験評価モニター
- ② 7月1日～2日 埼玉県川口市（鳩ヶ谷地区）の「第3回日光御成道鳩ヶ谷宿夏の陣」
- ③ 7月29日～30日 北海道南富良野町での「町制施行50周年記念かなやま湖湖水祭り」
- ④ 10月28日 埼玉高速鉄道埼玉スタジアム線浦和美園駅周辺で開催された「第3回浦和美園まつり&花火大会」

さらに、北海道南富良野町での地域連携事業活動について、事業活動を行うことによって、本学学生及び地域にどのようなメリットがもたらされるのかについての考察を行い、今後の地域連携事業活動（学外実習）の一層の充実を期するものである。

1. 南富良野町ウィンター・アウトドア・プログラム 実施体験評価モニターの概要

(1) 事業の背景と経緯

南富良野町は北海道のほぼ中央に位置し、主要産業は農林業の人口およそ2,500人の町である。近年では豊かな自然資源の活用によるアウトドアレジャー産業が発展しつつあり、約40人のアウトドアガイドが移住し活動するなど、町としても新たな産業として期待されている。

現在、アウトドアレジャーの一層の充実を図るため、NPO 法人南富良野まちづくり観光協会が中心となって「手ぶらでアウトドア」のコンセプトで、気軽に取り組めるアウトドアレジャー・サービスやプログラムの開発に取り組んでいるところである。

南富良野町では、これらサービスのターゲットと想定している都会暮らしの若い世代、なかでもアウトドアに慣れていない若い女性に対して、サービスやプログラムの内容が魅力的なものかどうか、サービスの水準が顧客の期待に的確に答えているものかどうかについて、マーケティングをしたいというニーズを持っていた。本学学生はまさに都会育ちの若い女性であり、学生が実際に体験を行って、その率直な感想や意見をフィードバックすることにより、地域のサービスやプログラムの拡充に資することができるのではないかとことから、事業を実施したものである。

(2) 事業の概要

本事業の実施スケジュール及び主な内容は以下のとおりである。

初めて当地を訪れる学生であったことから、南富良野町及び(株)南富良野町振興公社、NPO 法人南富良野まちづくり観光協会などから地域の実態や地域活性化事業内容等を学ぶ研修や町内視察を併せて行い、アウトドアレジャー体験を実施した。

参加学生：11名（コミュニティデザイン学科1年）

期間：平成29年3月15日～17日（3日間）

表1 実施スケジュール

日 時	概 要	担 当
3月15日（水）	南富良野の現状を知る（北のまちの暮らし）	南富良野まちづくり観光協会
10：00～	①地域活性化の取り組み（道の駅南ふらのの再編について）	南富良野町（企画課）
11：00～	②地域の資源と北の暮らしと産業	南富良野まちづくり観光協会
13：00～	③町内視察（自然資源・産業資源）	南富良野まちづくり観光協会
3月16日（木）	南富良野の地域資源に触れる	どんころ野外学校
9：00～ （終日）	①自然資源を活用したアウトドア産業を学ぶ	どんころ野外学校
3月17日（金）	南富良野町の振興を支える振興公社の取り組みを学ぶ	南富良野町振興公社
10：00～	①ホテル業務を学ぶ（北海道の小規模なホテルならではの取り組みや苦勞、工夫など）	かなやま湖ログホテルラーチ
10：45～	②南富良野町振興公社の業務を学ぶ	南富良野町振興公社
11：30～	③物産センターの業務を学ぶ（物産センターの業務内容、現状と課題など）	道の駅南ふらの
13：00～	新たな観光資源の活用方策を考える（気軽に楽しめるアウトドア）	南富良野まちづくり観光協会

(3) 参加学生の評価・感想の概要

地域連携事業活動実施後の学生が取りまとめた評価・感想としては、いずれのアウトドアレジャー・メニューも好評であったが、ガイドの説明の仕方や、広報や宣伝の仕方について、具体的な提案があった。また、地域連携事業活動そのものに対しても、多くの意見が出された。ここでは、今後の地域連携事業活動の一層の充実のために主な意見を記す。（以下、原文のまま記載）

【地域連携事業活動参加学生の主な感想】

- ・最初はただの観光のつもりでしたが、いろいろな体験、お話を聞いたことで、南富良野町のまちづくりに今後少し携わってみたいと感じた。
- ・町を支えている人たちのお話を聞くことができとても良かったと感じました。
- ・地元の方や役場の方やインストラクター、ホテルの方々などのお話も1つ1つ心にしました。
- ・町の役場や観光協会で働く町民の方だけでなく、ほかの町民の方にお話を聞いてみたいです。
- ・小学生・中学生・高校生とふれあってみたいと思いました。
- ・まちづくりに実際に関わっている人に具体例を挙げてもらいながら説明してもらえたことでまちづくり事業に対して憧れが強くなりました。
- ・人口が少ないので、ほとんどの人を覚えるなど、南富良野町の人との親密な付き合いがとてもいいなと思いました。
- ・南富良野町にはこんなにも良いところがあるのにあまり知られていないということがわかり、今後どうやってアピールしていけばいいのか考えていくことが重要だと感じた。

単に見学するだけでなく、実際に地域活動を行っている人から直接話を聞くことで、より実感の度合いを高め、今後の関わりを深めていきたいと感じていることが伺える。今回は役場職員や観光協会スタッフ、アウトドア事業者などとの交流に留まっているが、町内視察の際、偶然にお話を聞くことができたベリー農家（観光ベリー園等を経営）などから、実際に冬の暮らしを聞いたことは貴重な体験であり、こうした経験が、他の町民との交流や小中学生等との交流など、幅広い人と人との交流への期待に広がっているものと思われる。

今後、南富良野町で実施してみたい学外実習の内容について聞いたところ、回答が多かった学外実習の内容として

は、「地域イベントへの参加・交流（単に参加するだけでなく、企画や運営にも携わる）」、「道の駅再編に関する提案（どのような道の駅にすれば良いかなど）」が上位に挙げられており、次いで「特産品開発（地域の新たなブランドづくり）への提案」などとなっている。これらについては、プログラムに単に参加するだけでなく、企画や提案といった成果を出せるような学外実習を期待していることが伺える。「地域イベントへの参加・交流（単に参加するだけでなく、企画や運営にも携わる）」については、最も関心の高い内容としても意見が集中している。

表2 アンケート調査による学生の意見

問 南富良野町で学外実習を行うとしたら、どのようなことに興味がありますか。
1 番関心の高いものに◎、上位3つまで選んで下さい。

(回答者数)

興味のある学外実習の内容	◎	◎+○
1. 地域の資源調査（地域の資源を女子大生の目線で掘り起こし、再構築）	1	3
2. 地域の課題調査（住民アンケートやヒアリングなど）		2
3. 来街者（観光客等）に対する意向調査（どんな人がどこから来ているのかなど）	2	3
4. 地域住民との交流（地域の方々との交流会など）		3
5. 地域イベントへの参加・交流（単に参加するだけでなく、企画や運営にも携わる）	3	5
6. 道の駅再編に関する提案（どのような道の駅にすれば良いかなど）	1	5
7. 特産品開発（地域の新たなブランドづくり）への提案	2	4
8. シティプロモーション（南富良野町のイメージ戦略・広報戦略など）		1
9. 震災復興ボランティア		
10. その他		1

イベント終了後実施

2. 埼玉県川口市（鳩ヶ谷地区）「第3回 日光御成道鳩ヶ谷宿・夏の陣」

(1) 事業の背景と経緯

本事業は、同イベントの実質的な実施主体である鳩ヶ谷商工会等の要請により、昨年に引き続き同イベントに参加したものである。主な内容としては、開会式への参加、会場内にてスタンプラリー、福引抽選、来場者への声掛け等と昨年と同じであったが、今回からフードバンクの取組を実施した。

(2) 事業の概要

本事業では、事前の準備としてNPO法人フードバンク埼玉へのヒアリング、ポスター作成及び掲示、チラシの作成と配布、FM川口への出演などを実施し、フードバンク事業のアピールを行った。

参加学生：1日 25名（コミュニティデザイン学科2年生9名、1年生16名）

2日 14名（コミュニティデザイン学科2年生6名、1年生8名）

期間：平成29年7月1日～2日（2日間）※イベントのみ

表3 実施スケジュール

日 時	概 要
5月26日（金）	鳩ヶ谷商工会訪問（学科2年生15名） ・鳩ヶ谷地区の概要説明 ・これまでの取組内容の説明
6月21日（水）	NPO法人フードバンク埼玉訪問（学科2年生2名） ・フードバンク事業の概要 ・具体的な取組方法のアドバイス ・幟旗等の貸与
6月23日（金）	フードバンクポスター、チラシ作成打合せ ・ポスター2種類 ・チラシ（ポスター縮小版） ・お礼用カード
6月26日（月）	FM川口への出演（学科2年生2名、1年生2名） ・フードバンクについてアピール
7月1日（土）	日光御成道鳩ヶ谷宿・夏の陣 ・開会式 ・スタンプラリー受付 ・福引抽選会場運営 ・フードバンク受付
7月2日（日）	日光御成道鳩ヶ谷宿・夏の陣 ・スタンプラリー受付 ・福引抽選会場運営 ・フードバンク受付
7月3日（月）	NPO法人フードバンク埼玉へ集められた食品をお届け

(3) 参加学生の評価・感想の概要

終了後、学生がコメントペーパーに記載した主な感想は以下のとおり。

①学生の主な感想

- 地域の方々やスタッフの方々との交流・ふれあいが良かった。
- このようなお祭りが、地域の人々が協力し出来上がっていることを改めて知ることができた。
- 沢山の人と関わることの楽しさを実感した。
- 地域のお祭りはいろいろな人が関わって成り立っていることがわかったので、これから祭りに行くときは今までとは少し違う目線で楽しむことができる。
- 各活動を通して、地域の人たちと関わることのできる楽しさを感じた。

②今後のイベントへの提案

【イベント全体（開催時間・レイアウト・BGM）に関して】

- 開催時間を長く（夕方）すると、小学校高学年～高校生の来場が増えるのでは。
- 休憩のできる・座れる広い場所、ゆっくり食べられる場所を確保する。
- （複数の会場に足を運びづらい・知らないの）一番近い会場までの道に日光御成道のお祭りの目印のような“道しるべ”があると次の会場まで行っていただけるのでは。
- どこでメイクを無料でやっているのか、お花の交換はどこでやっているのかなどの宣伝を、お祭り会場にもう少しわかりやすく表示
- BGMの工夫（最近の若い人向けの曲、夏の曲）

【福引】

- 福引の台の高さが小さな子どもには高いので、踏み台を置くなど工夫する。

○福引の景品を入れる袋（小さくて上位の景品が入らない）を景品に合わせる。

○福引の場所を別の場所にする（周りの屋台と動線が重なるので）

【仲見世通り・屋台】

○仲見世通りで提供されているものが、子ども向けが多い。高齢者向けやその地域の名物品を使った食べ物があっても良い。

○中高生に出し物をしてもらうとより口コミや参加者、見学者が増えると思う。

○今回は跡見生の数も多かったため、それぞれの屋台を手伝っても良いのでは。

【スタンプラリー】

○スタンプからスタンプまでの間（例：本部から駅までの間など）に何かあったら良い。移動中に何もなかったのではわざわざ移動しなくてはいけないと感じる。せっかくの雰囲気のある街並みなのでもっといろいろな場所を回ってもらえるようにスタンプのポジションを増やしたり、スタンプだけではなく、鳩ヶ谷の歴史、物語を集めていく方式にしたらどうか。

3. 南富良野町「町制施行50周年記念かなやま湖湖水祭り」

(1) 事業の背景と経緯

これまでの南富良野町との連携事業を通じて、同町より町制施行50周年を記念するイベントにボランティアスタッフとして参加協力要請があり参加することとなった。なお同イベントは「新・ご当地グルメグランプリ北海道2017 in 南富良野」の同時開催となっている。

(2) 事業の概要

イベントにおける学生の活動は、北海道各地から集まった特産品の販売支援、試食及びアンケート調査、北海道米の普及啓発事業（試食、食べ比べ）の支援であった。

参加学生：10名（コミュニティデザイン学科2年生2名、1年生8名）

期間：平成29年7月29日～30日（2日間）

表4 平成29年7月 実施スケジュール
（かなやま湖湖水まつり、新・ご当地グルメグランプリ北海道2017 in 南富良野）

日 時	概 要
7月30日（土）9：00～18：00	①北海道物産販売（各商工会）支援 ②北海道米販売拡大委員会支援
7月31日（日）9：00～16：00	同上

4. 浦和美園祭り & 花火大会

(1) 事業の背景と経緯

本学部で2年生を対象として実施する基礎ゼミナールのインターンシップ（以下、学外実習）において、本学でも初めて埼玉高速鉄道株式会社により2名の学生を受け入れていただいた。埼玉高速鉄道株式会社については昨年より、川口市鳩ヶ谷地区で行われた「日光御成道鳩ヶ谷宿・夏の陣」というイベントを通じて本学科に期待を寄せていただき、今年度より学外実習の運びとなったものである。

学外実習では、埼玉高速鉄道株式会社事業推進課にて、沿線地域の魅力発掘と創造をテーマとする課題を学生が考えるという形で実施され、様々な活動を行ったが、なかでも駅周辺に居住する住民とともに同社が実質的な実施主体

となっている「浦和美園まつり&花火大会（第3回）」にあたり、若い女子学生の目線での企画提案と企画に基づく実施が課題とされ、学外実習生及び学科学生を中心に当日に向けて様々な準備と当日の学生企画の運営を行うこととなった。

(2) 事業の概要

参加学生：25名（学外実習生：コミュニティデザイン学科2年生1名、観光デザイン学科2年生1名、準備及び当日参加学生：コミュニティデザイン学科3年生2名、2年生1名、1年生20名）※学外実習生のうち1名は準備及び当日参加

期間：平成29年10月28日（1日間）※イベントのみ

今回の「浦和美園まつり&花火大会」では、学生がハロウィンをテーマにしてはどうかという提案を行い、「ハロウィンの仮装で集合！」をメインに、隠れたカボチャを探そうゲーム、近隣の園児等を対象にハロウィンの塗り絵を持って行こうという企画、ハロウィンの仮装をした人たちの写真を撮って展示するといった企画、学生自らがハロウィンの仮装をし、場内や電車内でお祭りをアピールしたり、花火大会終了後駅に戻ってくる来場者をサプライズで楽しませようとキャンドルイルミネーションを設置したりするなど、様々な企画を実施した。

(3) 参加学生の評価・感想の概要

終了後、学生が寄せた主な感想は以下のとおりである。

①実行委員会及び埼玉高速鉄道の皆さまへ

この度は浦和美園まつりへ参加させていただきありがとうございました。

お仕事が忙しい中、このような機会を設けていただき、人とどう関わっていくべきかを知る良い機会になりました。これらの経験をこれからの活動に役立てていきたいと思えます。

②浦和美園まつり&花火大会に参加して（感想）

- ・多くの人とコミュニケーションをとれてよかった
- ・地域の人々と交流できてよかった

③跡見学園女子大学企画について（良かった点、反省点・改善点）

【フードバンク】

- ・3.2kgの商品を寄付頂いた（6名） → フードバンク埼玉に寄付
- ・フードバンクの事前の周知

【塗り絵】

- ・約200枚を回収（配布数の1割）
- ・当日参加できる塗り絵のブースはよかった。当日用の枚数を増やす

【かぼちゃ探しゲーム】

- ・複数のスタンプラリーがあり、わかりにくかった

【チェキ】

- ・チェキの使い方に慣れておく
- ・チェキの時はフィルムを入れられるポシェット等を用意する
- ・チェキを撮る際は、逆光に気をつける（写真が出るまでに時間があるので、写っていないものを渡してしまう可能性がある）

【仮装】

- ・オリジナリティが足りなかった

- ・仮装をすると大学名やイベントのスタッフであることがわからないため、チェキなどの際、不審がられることがあった

【キャンドル】

- ・キャンドルを入れたガラスコップを割れないものに替える
- ・キャンドルの展示を大きくして目立たせる

④来年の浦和美園まつり&花火大会に向けて（イベント全体についての提案）

- ・雨対策
- ・お菓子を本部から投げて配る際、少し危険を感じる時があった（子どもをおぶったお母さんなど）
- ・子どもが遊べる場所を設ける
- ・大人も楽しめるイベント
- ・周辺の道や会場を聞かれることが多かったので、パンフレットだけでなく会場に大きな地図（案内）を設ける

5. 南富良野町との連携事業における学外実習の目的・狙い

5-1. 大学における学外実習の目的・狙い

(1) 一般的なインターンシップの目的・狙い

近年、大学教育におけるインターンシップの実施は、学生が実際の企業等の職場において体験することによって、将来の自らの就業のあり方を考える貴重な機会として捉えられている。また企業の側においても、就職活動に入る前の若い学生に対して、自社の企業理念や職場の雰囲気などを伝える重要な機会として捉え、優秀な人材確保の観点から重要な取組と位置づけている。

このような大学と企業それぞれが掲げる目的や狙いのもと、お互いの利益が一致するところで、インターンシップは成り立っていると言える。

(2) 本学における学外実習の目的・狙い

本学では平成27年に観光コミュニティ学部を新設し、同学部においても2年時のインターンシップ（本稿では学外実習）が必須（必須となるインターンシップは最低6日間、45時間以上）となっている。ただし同学部では、主に企業における仕事体験が主流であるインターンシップとは異なり、地域や社会の中で、様々な問題や課題に取組み、その解決策を探るという学部学科の学びから、インターンシップ先についても、必ずしも企業に拘ることなく、行政はもとより様々な地域団体やNPO等も対象とし、あえて学外実習と称している。

ここでは行政や各種の地域団体等の業務内容を学ぶこともあるが、現実の地域の中で実際に発生している問題や課題に向けて、その解決策を一人ひとりが考え、解決策を実施していくことも含まれている。

特に同学においては、このような地域社会の現場に触れ、地域活動を行っている方々と一緒に、地域問題や課題の解決に向けた取組を実際に行うことが学外実習（インターンシップ）の目的・狙いとなっている。

5-2. 南富良野町におけるインターンシップ受入の目的・狙い

インターンシップを受け入れる南富良野町の受入の目的・狙いとしては、一般的なインターンシップの目的・狙いと同等に、最終的には優秀な人材確保であり、インターンシップ生が将来、南富良野町に移住・定住していくことでもあり、その最初のきっかけづくりと言える。

移住・定住ということだけに絞って考えると、その実現までには様々なハードルがあり、特に北海道の生活環境や移動の距離感を考えると、当然に道内の大学などがその有力候補とするべきである。

今回、首都圏に立地する女子大学からインターンシップを受け入れたことは、道内の大学や学生の受入れに比べて、移住・定住のみを最終目的とする戦略からは弱いと言わざるを得ない。しかしながら、一方で北海道の生活や文化に

慣れた道内の学生が南富良野を見る視点と、北海道の暮らしに接する機会も少ない都市の学生が見る南富良野は道内の相対的な地域ではなく、絶対的な南富良野の自然やそこでの暮らし、文化である。従来の路線でこれまでどおり道内の学生を受け入れ、南富良野に接してもらいながら、将来の移住・定住を促進していくことも重要であるが、本事業が掲げるまちの賑わい創出に向けては、これまでにない新たな視点で大きく都市農村交流の姿を描くことが求められていると言える。その意味で、首都圏の大学、なかでも女子大学の感性豊かな学生を受け入れることにより、これまで当たり前と感じていた地域資源を、再評価し、時には新たに発掘しながら、地域の質を高めていくことが重要と考える。

そしてインターンシップをきっかけとして南富良野町に訪れた学生の中から、本町に何度も訪れるコアな交流人口として、また都市生活のなかでも南富良野産の農作物を見つけ選んで購入し、やがては南富良野町との二地域居住や移住・定住に向けて広がっていくことが期待されるのではないか。

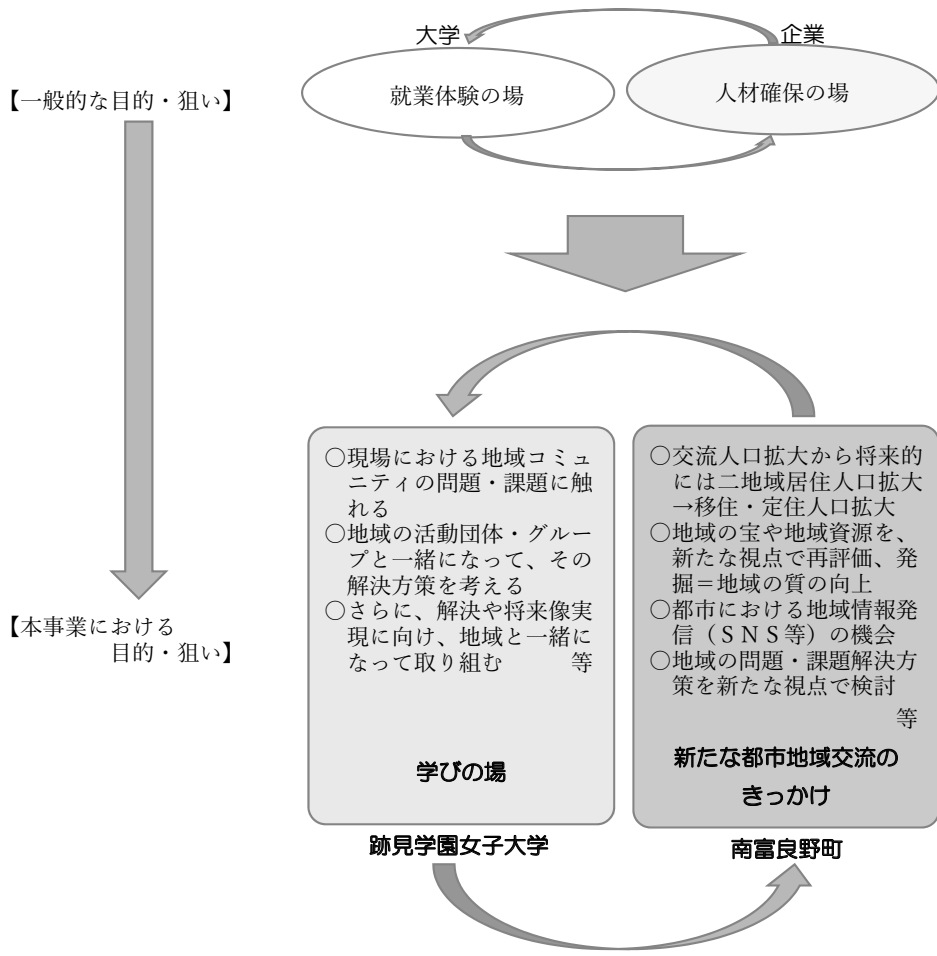


図1 本事業におけるインターンシップの目的・狙い

5-3. 今後の学外実習に向けて

(1) 大学・学生としての評価

大学における学外実習の目的・狙いは先に掲げたとおりであるが、今回の学外実習にあてはめると、以下のよう

に評価できる。

まず、1点目の現場における地域コミュニティの問題・課題に触れる点については、行政職員や振興公社職員、観光協会スタッフ、アウトドア事業者、町民など、多数の方々から直接、現場で話を聞くことができたこと、単に話を聞くだけでなく現場や体験を通じて、その理解を深めることができたことは高く評価できる。

2点目、3点目については3月実施は3日間と短い期間であったことから、今回のプログラムでは実施できなかつ

た。

また、学生の感想でもあったように、地域の方々との交流ができなかったことも、今後の課題と言える。

【大学におけるインターンシップの目的・狙い（再掲）】

- ①現場における地域コミュニティの問題・課題に触れる
- ②地域の活動団体・グループと一緒にあって、その解決方を考える
- ③さらに、解決や将来像実現に向け、地域と一緒に取り組む

(2) 南富良野町としての評価

南富良野町としての評価については、短期的な目的と長期的な目的があるため、特に長期的な目的についての評価は今後に委ねることになるが、短期的な視点で見ると、以下のように評価できると思われる。

以下の目的・狙いに掲げる①については、今回のインターンシップでは、本来実施する予定であった平成28年8月では4名の参加が予定されていたが、3月実施では11名となり、7月には結果10名となったが希望者は30名を超え、学内でも認知が高まっており、交流人口という視点では確実に広がっている。

一方で、短いインターンシップであったことから、②や③の地域の問題・課題を理解してもらうことに留まっており、本来の成果までいっていないが、今後、大学の側で引き続き検討していくことで、成果に結びつくものと思われる。また学生の感想・アンケート調査結果でも見られるように、インターンシップを通じて、地域課題解決方策や地域ブランド形成に向けた提案、イベントの企画運営などを行ってみたいと考えている学生が多いことから、そうした成果に結びつくことが期待される。

④の情報発信についても、今回は特にそうした指示を行わなかったため学生の個人的な情報発信（SNS等）に留まった。

【南富良野町におけるインターンシップ受入の目的・狙い（再掲）】

- ①交流人口拡大から将来的には二地域居住人口拡大→移住・定住人口拡大に繋げる
- ②地域の問題・課題解決方策を新たな視点で検討する
- ③地域の宝や地域資源を、新たな視点で再評価、発掘＝地域の質の向上に繋げる
- ④都市における地域情報発信（SNS等）の機会を増やす

(3) 今後の学外実習に向けて

大学として目指すことは学外実習として良好なフィールドを確保することであり、南富良野町にとってはインターンシップを通じて南富良野のことを考える都市の女子学生を確保すること、さらに何度も地域に訪れる学生、学生が新たに後輩を連れてくるなど、まさに単なる観光に留まらないより関係の濃い交流人口を拡大することである。このような交流人口の中から、二地域居住や、やがては移住・定住の可能性が高まっていくことと期待される。

今回実施された学外実習事業の評価及び反省点を踏まえ、南富良野町で学外実習を経験した学生が、さらにコミュニティデザインや地域振興に関する学びの関心を高め、引き続き南富良野町でのフィールドワークを重ねたいと思う学外実習とするためには、以下のような学外実習・プログラムの充実を図ることが求められる。

①行政ならびにまちづくり・地域活動団体・グループ、町民との多様な交流機会の拡大

南富良野町の自然やアウトドア体験は都市の女子学生にとって憧れであり感動をもたらすものであるが、これだけでは北海道の中からあえて南富良野へというモチベーションとしては弱い。学生の感想にもあるように実際にその地域に暮らす人からの話や交流を通じて、よりその地域への愛着が高まり、また来たいという感動に繋がっている。さらに単に話を聞くだけでなく、学生が考えてきた地域活性化案などを題材としたワークショップなど、双方向の交流となるような機会とすることが重要である。

またその対象も、農業者（女性・若手農業者）、商工業者、アウトドア業者、地域起こし協力隊や新たに起業した新規転入者、高齢者（地域の歴史や文化を知る）、高校生や中学生など、多様な主体とすることが期待される。

②テーマ設定、課題設定による事前準備（大学）の取組の拡充

1週間から10日間程度の短期間の学外実習でそれなりの成果を上げるためには、それなりの事前準備が必要である。特に学生にテーマを与え、それについて他地域の取組はどうなっているのか（先進地事例調査）を行いながら、南富良野町の特徴や地域特性にあてはめてみるなどの研究活動を行った後、学外実習に参加し、現地で検証するというパターンを継続することが重要である。大学においてはこうした取組の蓄積が次年度の学生に引き継がれ、より地域に密着した提案となっていくことが期待され、これは地域においてもより現実的な南富良野ならではの活性化方策に繋がっていくものとして期待される。

③地域の人を交えたワークショップの実施

①のなかでも触れているが、より密度の濃い交流とするとともに、②に掲げた事前研究を含む学生の提案をベースに、行政職員や地域振興に関わる方々、また農林業者や商工業者、女性グループや中高生などテーマに応じた多様なワークショップを開催し、学生自身は自らの考え方を検証しながら、地域の人と一緒に活性化のアイデアを作り上げていくという機会を得ることが、大学として期待する学びの場としては最も有効なものである。

こうした受入は地域の負担も大きくなるが、これからの住民自治の流れとしては重要な機会となると思われる。町の住民自治、住民参画のまちづくりの流れの中に、学外実習事業を組み込んでいくことができないか検討が必要である。

④複数回（最低年2回）の学外実習プログラムの検討

北海道の自然は夏と冬で大きくその様相を変えるため、本来は年間を通じたインターンシップとなることが期待される。少なくとも夏と冬の2回程度実施できると学生の地域資源の発見や地域振興の提案もより具体的、地域の実情に合ったものとなる。

5-4. 終わりに

今回の学外実習では、学生の旅費・交通費、宿泊費の負担を南富良野町地域協議会のインターンシップ事業として助成を頂き実現したものであり、大学としては今後も継続した支援を望むものである。しかしながら、学生がこうした支援があるから参加するということではなく、費用を掛けてでも学外実習に参加したいと思えるようなプログラムにしていくことが、最重要であると考えられる。